

つながる  
ひろがる  
かよいたう

# 第4次地域 福祉活動計画

2019年度～2023年度

～誰もが安心して生活できる千種区のために～



千種区マスコットキャラクター  
「こあらっち」



活動計画マスコットキャラクター  
「ユーカーリーナ」

少子高齢化、人口の減少、働き方の多様化、核家族化の進行など、地域社会や家庭の機能が大きく変化する中、人々の生き方、暮らし方は多様化しています。これまでは、家庭や地域社会などが人々の生活を支えるという面で大きな役割を果たしてきましたが、地域社会の変化、経済社会の変化に伴い、その機能は大きく縮小し、貧困、虐待、孤立など、日常生活において深刻な生活課題を抱える人々が増えています。

また、その生活課題は、複雑かつ多様化しており、公的サービスだけではすべてを解決することは到底不可能であります。

そのような状況下、支援が必要な人々を地域でどのように把握し、支えていくのか。そして、それらの人々を支える地域福祉の担い手をどのように確保していくのかなど、課題は山積しております。

社会福祉協議会は、それらの課題を解決していくことを目指して、このたび区民のみなさまをはじめ、地域の関係団体や行政のみなさまのお力添えをいただき、令和元年度から5年度までの5ケ年計画である「第4次地域福祉活動計画」を策定いたしました。

社会福祉協議会の強みであるネットワークを最大限活用し、地域住民や関係機関と連携を図りながら、子どもから高齢者、障がい者、外国人に至る幅広い分野におけるさまざまな課題解決に向け、全力で取り組みます。

どうか、ひとりでも多くの区民のみなさま、関係機関のみなさまのご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、本計画策定にご尽力いただきました、策定委員、作業部会委員のみなさま方に心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 名古屋市千種区社会福祉協議会 会長 小崎 恵子

このたび、令和元年度から5ケ年間を実施期間とした、「第4次地域福祉活動計画」がまとまりました。

第4次計画は、昨年度、黒川先生を始め、日頃、千種区内の様々な分野で積極的に活動しておられる方々で構成された、「策定委員会作業部会」において、千種区社会福祉協議会（区社協）職員とともに熱心に話し合いを重ねていただき、その整理された内容の計画案を「策定委員会」で協議、決定したものであります。

この計画は、第2次、第3次計画の基本理念である、「つながる」・「ひろがる」・「かよいあう」を継承し、“人と人”、“人と地域”をコンセプトに、各実施項目に基づいた個別の取り組みをすすめていく中で、多くの住民の参加と交流を図っていくことを目指しています。

また、活動を推進するにあたり、学区の地域福祉推進協議会を始めとした区内の幅広い組織、団体等との連携をより強めていくことも計画実現のための要となっています。

今日、地域の生活環境や暮らしの様も日々変容し続けています。また、依然として高齢化、少子化がすすんでいる中で、住民のニーズも多種、多様化してきています。

“誰もが安心して生活できる千種区”は、私達の共通の願いであるとともに、その実現に向けての私たちに課せられた課題でもあります。

本年度から5年間、作業部会のメンバーで構成する「推進委員会」と区社協が協働して、この計画に基づく活動をすすめていきますので、区民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

策定委員長 水野 勇夫

## 今、ここからはじまる

～第4次地域福祉活動計画の推進に向けて～

新しい令和の時代が始まるこの年に、「第4次地域福祉活動計画」がスタートします。そんな新しい時代の地域のあり方を作業部会の委員の皆様と考えることができたことを幸運に思います。平成の時代には、大規模な2度の大地震をはじめとする多くの災害があり、人と人、地域のつながりの大切さを身にしみて感じる事となりました。災害以外にも地域の抱える問題が多様化してきた30年だったと感じられます。作業部会では千種区の基本理念「つながる・ひろがる・かよいあう～誰もが安心して生活できる千種区のために～」の実現に向けて、1～3次の計画の活動を振り返り、見えてきた課題や今後取り組みたいことを委員の皆様で出しました。多様な課題に対する取り組みとして、子育て支援の強化、学習支援、孤立の防止、地域活動への参加促進、サロンの活性化、企業や団体との連携、国籍を超えたつながりづくりなどがあげられ、たくさんの“アイデア”と“思い”が詰まった行動計画となりました。

生活のなかで何かに困ったとき、一人では難しくても、点（ひと）と点（ひと）がつながり線となり、線と線が重なりあい面となってお互いを支えることができれば、きっと誰もが安心して過ごせる街になる。新しい時代に心新たに、千種区の住民の皆さんとともに、世代や国籍、障がいの有無などを越えた住民同士が支え合う住みよい千種区を目指していけたらと願っています。

作業部会長 黒川 文子（愛知淑徳大学 福祉貢献学部 准教授）



### 千種区活動計画マスコットキャラクター「ユーカリーナ」

はじめまして！

私は、コアラがだーい好きなユーカリーの葉っぱを載せた妖精、ユーカリーナです！

ちょっぴり恥ずかしがり屋だけど、好奇心は誰にも負けないわ！

千種区がもっともっと住みやすく、愛される街になるよう、

こあらっちと一緒に頑張ります！

どうか、みなさん、仲良くしてネ！応援してネ！お願いしま～す！！



## 目次

地域福祉活動計画とは	1
策定の体制	2
千種区の状況と特徴	3
第3次地域福祉活動計画のふりかえり	5
第4次地域福祉活動計画の全体像	7
計画の実施項目と取り組み	
「きっかけ」づくり	9
「ひと」づくり	11
「つながり」づくり	13
計画の推進・評価体制	16
策定委員会設置要綱	17
策定委員及び作業部会委員名簿	18

# 地域福祉活動計画とは

## (1) 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

社会福祉を推進する法律・社会福祉法には、「地域福祉の推進」が明記されており、地域住民、社会福祉事業を行う者等が相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるよう、地域福祉の推進に努めなければならないとされ、市町村ごとに「地域福祉計画」の策定が義務づけられており、名古屋市では「なごやか地域福祉」を策定しております。

地域福祉の推進が必要とされる背景には、少子高齢化、人口の減少、核家族化等の要因が考えられ、地域の中で孤立する人々、支援を必要とする人々は年々増加傾向にあります。これらの問題に対応するための市民団体やNPOも数多く存在しており、地域住民との連携・協働をとし、一人ひとりの人権を尊重する福祉のまちづくりが求められています。

「地域福祉計画」は、市町村が策定する行政計画ですが、一方で、地域住民が中心となって地域福祉活動を推進していくため「地域福祉活動計画」があります。この2つの計画の関係は、「地域福祉計画」は地域福祉推進のための基盤や体制をつくること、「地域福祉活動計画」は地域福祉を実行するための地域住民の活動・行動のあり方を定めることにあり、一体的に計画し推進するものとされています。

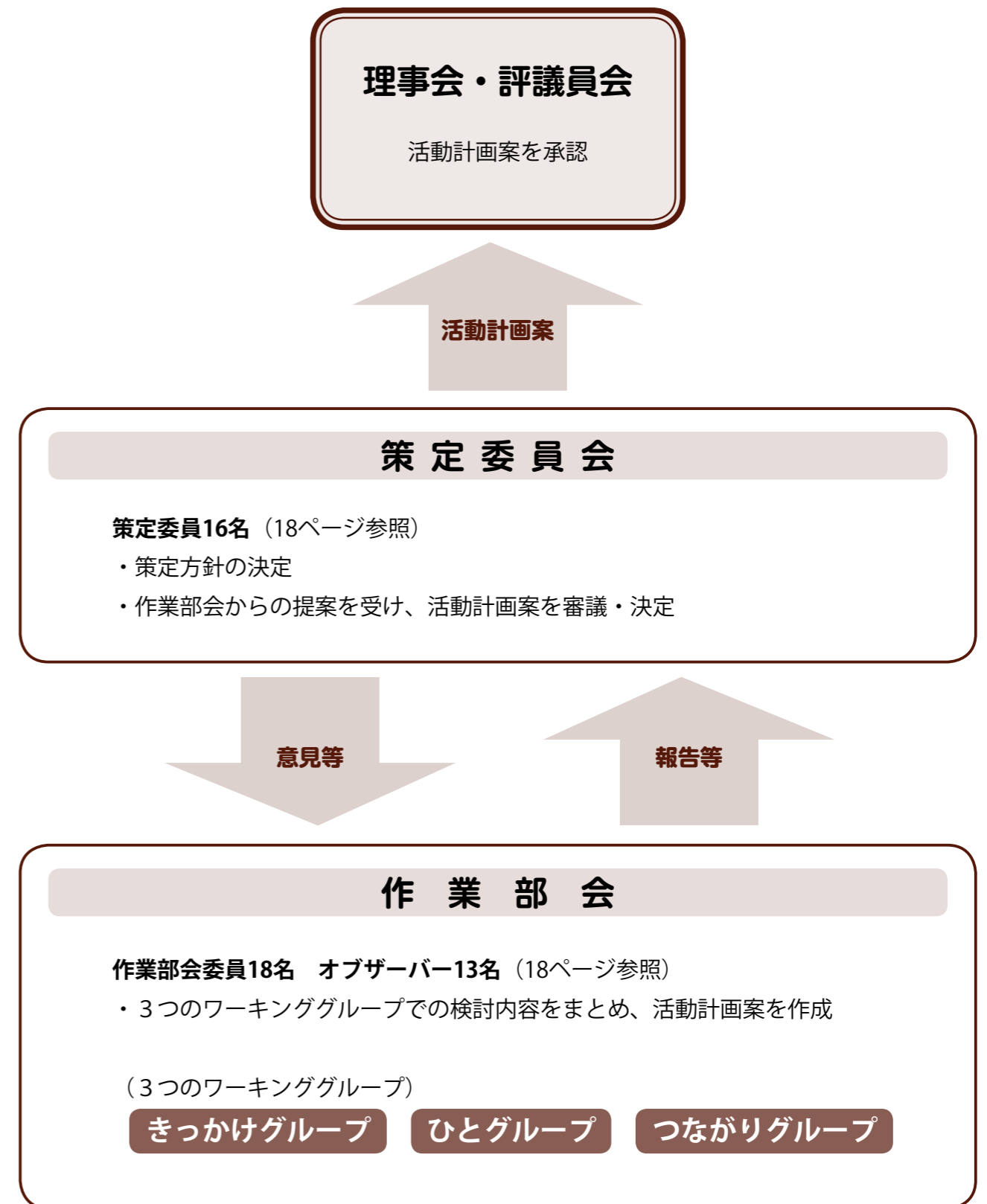
## (2) 地域福祉活動計画の役割

「地域福祉活動計画」は、住民主体の原則に立ち、社会福祉協議会が事務局を担いながら作成する計画です。策定にあたっては、区民をはじめ、社会福祉活動に関わる団体関係者や行政職員等で構成する「策定委員会」や「作業部会」を設置し、地域の抱える課題を把握・整理し、解決のための方法について検討します。そのうえで、活動の目標を設定し、具体的にどのように取り組むかを、1年ごとの実施計画として明記します。

千種区においては、平成16年度から、第1次地域福祉活動計画（平成20年度までの5ヶ年計画）を推進してきており、今回は、第4次地域福祉活動計画（令和元年度から令和5年度までの5ヶ年計画）の策定・推進に至っています。

活動計画の理念である「誰もが安心して生活できる千種区」の実現のためには、ひとりでも多くの区民の方々の地域福祉活動への参加が必要です。そのためにも、第4次地域福祉活動計画の積極的な広報と理解をいただく取り組みが重要と考えます。

# 策定の体制



# 千種区の状況と特徴

## (1) 人口や世帯構成からみる千種区

総数と年齢3区分別の推移

年	人口(人)				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	75歳以上
平成10年	144,191	18,260	101,944	23,983	9,451
平成20年	153,096 約1.11倍 +15,638	18,509 約1.09倍 +1,727	102,746 約0.99倍 ▲1,480	31,837 約1.64倍 +15,395	14,985 約2.14倍 +10,804
平成30年	159,829	19,987	100,464	39,378	20,255

※各年10月1日現在 統計なごやweb版より(年齢別については「年齢不詳」を除く)

千種区の人口は、20年前と比べると1.11倍増加しています。年齢別にその内訳をみると、0～14歳までの子どもは約1.09倍の増加、15～64歳は0.99倍の微減、65歳以上は約1.64倍の増加で、そのうち75歳以上に限ると、2倍以上の増加となっています。人口増加の大半を65歳以上が占め、高齢化が進んでいます。

### ひとり暮らし高齢者数の変化

年	ひとり暮らし高齢者数(人)
平成22年	8,485
平成27年	9,475 約1.12倍

※各年10月1日現在 統計なごやweb版より

高齢者数の増加に合わせて、ひとり暮らしの高齢者数も増加しています。高齢者の4分の1程度はひとり暮らしとなっています。

### 外国人人口の変化

平成30年4月1日時点	外国人人口(人)	増減数(人) (前年比)	増減率 (前年比)
名古屋市	79,072	495	7.4%
千種区	6,304 (3位)	696 (2位)	12.4% (1位)

※統計なごやweb版より(順位は市内16区中の順位)

外国人人口も市内トップクラスです。前年比の増減率では、市内16区の中で1位となっています。

### 居住する建物ごとにみる世帯数

平成27年 10月1日時点	世帯総数	戸建世帯	集合住宅世帯	割合	その他
名古屋市	1,037,072	366,279	669,154	65%	1,639
千種区	83,267 (3位)	20,105	63,002 (1位)	76% (3位)	160

※国勢調査より(順位は市内16区中の順位)

千種区の特徴のひとつとして、「集合住宅が多いこと」があげられます。集合住宅世帯数は市内1位、世帯総数に占める割合も中区、東区に次いで3位です。全世帯の7割以上が集合住宅に住んでいます。

### 転入者・転出者数

平成29年4月～平成30年3月	転入者数(人)	転出者数(人)
名古屋市	160,849	150,584
千種区	13,768 (2位)	13,255 (1位)

※統計なごやweb版より(順位は市内16区中の順位)

転入・転出者数も多く、人口流動性が高くなっています。総人口のうちの8～9%を転入者と転出者で占めています。

## (2) その他「千種区ってこんなところ」

	都市公園面積(ha)	1人あたりの面積(m <sup>2</sup> )
名古屋市	1295.04	5.6
千種区	206.39	12.5(2位)

※2018みどりの年報より(順位は市内16区中の順位)

愛知県民が選んだ住みたい自治体ランキング	1位
----------------------	----

※「住みたい街ランキング2018愛知県版」SUUMO調べ

千種区が住みやすいと思う点	%
交通の便が良い	67.0
買い物がしやすい	44.9
治安がよい	40.4
医療機関が多い	28.7
緑(公園)が多い	25.7

※平成30年度千種区区民アンケート調査結果より

千種区には全国的にも有名な東山動植物園があるね!

おしゃれなカフェや雑貨店もたくさんあるよ。大学や専門学校などもたくさんあって、学生に人気のまちなんだ!

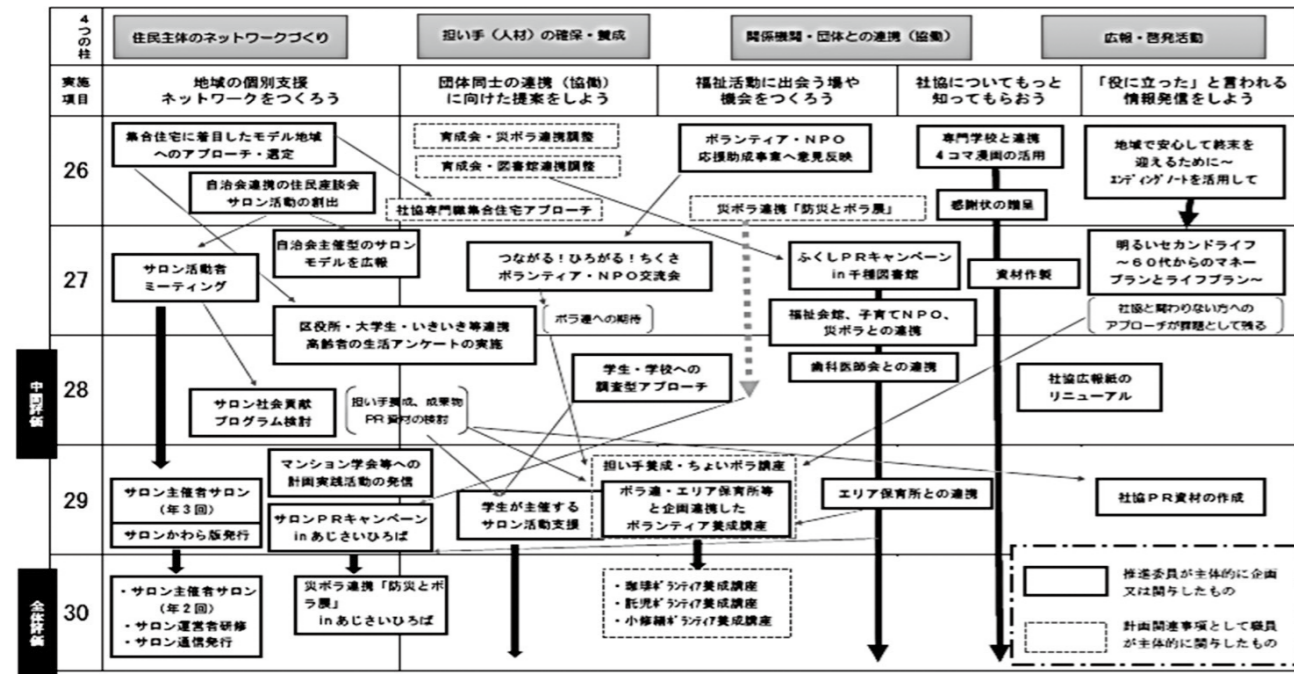


# 第3次地域福祉活動計画のふりかえり

地域福祉活動計画は5年間をひとつの期間として、これまで第1次から第3次まで推進してきました。計画の終了時には評価と見直しを行い、次期計画へ引継ぎをしています。ここでは、前回の第3次計画（平成26年度～平成30年度）をふりかえります。

## (1) 第3次計画の取り組み一覧

3次計画では、「4つの柱」を基に「5つの実施項目」を立て、下記のような取り組みをすすめました。



## (2) 取り組みの事例紹介

### ～サロンから広げる支援とつながり～

住民同士の助け合いを広める足掛かりとして、サロンを広める活動を行いました。

住民の高齢化やつながりの希薄さに悩んでいた区内のマンション自治会とともに、マンションでのサロンを開設。集合住宅が多い千種区における、サロン開設のひとつのモデルとなっています。



サロン主催者向けのサロンを定期的実施。サロンで活かせるような情報提供や講座、交流会を行いました。また、活動の周知と参加者の増加を目指し、区内のサロンごとに「サロンかわら版」を作成しました。

## ～新たなつながり・担い手・イベントづくり～

団体同士をつながられるような、また、福祉に関心のない方と福祉を、活動したい方と活動をつながられるような講座や交流会、イベントを提案実施しました。



障がい者団体と災害ボランティアによる「防災・減災研修」



歯科医師会、図書館との協働による子育て世帯向けイベント



網戸張替などの小修繕を行うボランティア養成講座\*  
\*養成講座は他にも託児や介護予防など7種の講座を実施

## ～活動のPRやより効果的な広報活動の実施～

イベントを活用した活動のPRや、マンガを活用した広報誌やパンフレット作成を行いました。



区内の専門学校の学生に協力してもらい、計画や社協の活動をより身近なものとして紹介できるような4コマ漫画を広報誌に連載。そこから生まれたキャラクターを活かして、クリアファイルなどの資料を作成し、イベントなどで配付することで、PRに役立てました。

## 【第3次計画から第4次計画へ】

サロン活動への着目は、サロンを拠点に住民ひとりひとりの生活上の困り事などを把握し、解決することを目指したものでしたが、そのためには、さらに多くの関係機関や団体、そして住民の理解や協力が必要不可欠となりました。また、せっかく生まれた新たな活動を「その場限り」で終わらせず、継続・発展させる工夫がさらに必要です。そして、これまで積極的に関わりを持ってなかった「企業」「男性」「子育て世代」など、対象を絞った働きかけも求められています。活動計画の住民への認知度はまだまだ低く、計画推進のためには、広報活動の取り組み強化が必要です。

# 第4次地域福祉活動計画の全体像

## 基本理念

「つながる・ひろがる・かよいあう」

～誰もが安心して生活できる千種区のために～

## 3つの柱

I 地域に目を向け、  
地域を知る  
『きっかけ』づくり

II 地域を学び、  
地域で活躍する  
『ひと』づくり

III 地域を基盤とした  
『つながり』づくり

## 7つの実施項目

1 福祉情報の発信強化

2 地域デビューの促進

3 地域ニーズに即した  
人材養成

4 継続した地域活動に向けた  
取り組み

5 つながり<sup>を</sup>を我が事として  
考えるきっかけづくり

6 つながる<sup>一歩</sup>を手助けする  
人づくり

7 地域の中で安心して過ごせる  
居場所づくり

## 11の取り組み

① 多様な情報発信 【実施項目1-1】  
② 区民の声を反映した情報発信 【実施項目1-2】

③ イベント等への参加 【実施項目2-1】  
④ 地域デビューのすすめ 【実施項目2-2】

⑤ え〜ひと紹介 【実施項目3-1】  
⑥ 養成講座の開催 【実施項目3-2】

⑦ 活動者同士の交流 【実施項目4-1】  
⑧ 地域団体等との協働 【実施項目4-2】

⑨ つながり<sup>だん</sup>暖だんステップ 【実施項目5】

⑩ あったか交流活動 【実施項目6】

⑪ 多世代の交流 【実施項目7】

# 計画の実施項目と取り組み

## 柱1 地域に目を向け、地域を知る『きっかけ』づくり

実施項目
<b>1 福祉情報の発信強化</b>
取り組み
<p>地域に目を向け、福祉に関心をもってもらうため、“福祉情報”に触れる機会を増やすことで、地域住民の福祉意識の向上を目指します。</p> <p><b>【実施項目1-1】 多様な情報発信</b></p> <p>多くの方々が立ち寄る場所（郵便局、スーパーなど）を「福祉情報配置店」と称し、地域活動や福祉活動につながる情報誌などを配置していきます。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の積極的な活用をとおし、世代ごとにきめ細やかな情報発信に努めます。</p> <p><b>【実施項目1-2】 区民の声を反映した情報発信</b></p> <p>幅広い世代から意見・要望を聴きながら、わかりやすく、タイムリーな情報発信を行います。また、SNSについては、若い世代や女性の視点を取り入れるため、「SNS発信検討会」を設置します。</p>

## 柱1 地域に目を向け、地域を知る『きっかけ』づくり

実施項目
<b>2 地域デビューの促進</b>
取り組み
<p>企業や地域などと連携し、福祉活動に興味をもってもらい、地域活動に参加いただけるような働きかけをすることで、活動デビューに向けた“はじめの一歩”を後押しします。</p> <p><b>【実施項目2-1】 イベント等への参加</b></p> <p>地域や商店街のお祭り、サロンなどのイベント等に出向き、地域活動につながる情報の提供・PRを行います。また、イベント等で出会った企業や団体などと協働し、「福祉イベント」の開催を目指します。</p> <p><b>【実施項目2-2】 地域デビューのすすめ</b></p> <p>イベント等で関係を築いた企業、団体、住民の方々などと協働し、地域活動につながる「地域デビュー」をすすめます。</p> <p>特に男性の地域参加の機会拡大に向け、定年退職を控えた男性などを対象に“え〜ひと”（実施項目3参照）など連携した「地域デビュー講座」を開催します。</p>

### 【5年間計画】

	R1	R2	R3	R4	R5
多様な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉情報配置店の選定・配置【小学校区に1カ所】</li> <li>活用するSNSの選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用スタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校区に2カ所】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校区に3カ所計45カ所】</li> </ul>
区民の声を反映した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域会合などでの意見聴取</li> <li>「SNS発信検討会」のメンバー募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SNS発信検討会」の立ち上げ・発信</li> </ul>			

### 【5年間計画】

	R1	R2	R3	R4	R5
イベント等への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・地域等への働きかけ・選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント等への参加</li> <li>福祉イベントの検討・開催</li> </ul>			
地域デビューのすすめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・地域等への働きかけ・選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域デビュー講座の開催</li> </ul>			

※計7回開催  
※計4回開催  
※計4回開催



**柱2 地域を学び、地域で活躍する『ひと』づくり**

実施項目
<b>3 地域ニーズに即した人材養成</b>
取り組み
<p>地域の中で活動する“え〜ひと”紹介や地域の困りごと解決に向けた人材養成の講座や学習会を開催することで、新たな活動者を増やします。</p> <p><b>【実施項目3-1】 え〜ひと紹介</b></p> <p>地域住民のちょっとした困りごとのお手伝いや見守りなどで活動する方々を“え〜ひと”と称し、様々な場面で探し、地域へ広めます。また、“え〜ひと”を集めた「え〜ひと名鑑」を作成します。</p> <p><b>【実施項目3-2】 養成講座の開催</b></p> <p>“え〜ひと”や地域団体などからの声を聴く中で、地域での困りごとを掴み、その解決に向けた人材の「養成講座」を、その地域で開催します。講座終了後は、グループ化を図り、円滑な活動に向けてのフォローアップ講座を開催します。</p>

**柱2 地域を学び、地域で活躍する『ひと』づくり**

実施項目
<b>4 継続した地域活動に向けた取り組み</b>
取り組み
<p>同じ志を持った人たちとのつながりや活動機会を増やし、人と人、人と地域を結びつけることで、活動を継続・発展させていきます。</p> <p><b>【実施項目4-1】 活動者同士の交流</b></p> <p>同じ志や活動を行なう人たちが集う「活動者交流会」を開催します。交流会をとおり、活動者のモチベーションアップと活動者同士の関係強化を図る中で、新しい活動に向けての後押しをします。</p> <p><b>【実施項目4-2】 地域団体等との協働</b></p> <p>既存の活動者とそれぞれの地域にある地域福祉推進協議会や自治会、町内会、社会福祉法人、企業、ボランティアグループなどとの関係づくりをすすめ、より地域に根差した活動の拡大や地域の困りごと解決などを目指します。</p>

**【5年間計画】**

	R1	R2	R3	R4	R5
え〜ひと紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>え〜ひとを探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「え〜ひと名鑑」の作成・紹介(適時、更新)</li> <li>※地域デビュー講座【実施項目2参照】や養成講座等で活用</li> </ul>			
養成講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>え〜ひとや地域団体などからの意見聴取、アンケート実施等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「養成講座」の開催【1カ所】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォローアップ講座、グループ継続支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「養成講座」の開催【1カ所】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォローアップ講座グループ継続支援</li> </ul>

**【5年間計画】**

	R1	R2	R3	R4	R5
活動者同士の交流		<ul style="list-style-type: none"> <li>「活動交流会」の開催【1カ所】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「活動交流会」の開催【1カ所】</li> </ul>	
地域団体等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域団体や企業などとの意見交換等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存活動者と地域団体等との交流会の開催【1カ所】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存活動者と地域団体等との交流会の開催【1カ所】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働事業の実施</li> </ul>

**柱3 地域を基盤とした『つながり』づくり**

実施項目
5 つながりを我が事として考えるきっかけづくり
取り組み
<p>つながりの大切さを自身のこととして受け止め、次の一歩を後押しする取り組みを進めます。</p> <p><b>【実施項目5】 つながり<sup>だん</sup>暖だんステップ</b></p> <p>高齢者などが集まるサロンや地域イベントなどで、つながり確認ツールを活用しながら、参加者が家族や友人、地域などとの“つながり”を振り返る機会をつくります。</p> <p>そして、人とつながると「安心なこと・楽しいこと」を住民自身の体験談などを交えて普及啓発していくことで、“つながりの大切さ”を専門職や関係機関とともに考え広げる活動を進めます。</p> <p>また、そこに参加された方に応じた制度の説明や地域行事やサロンなどを紹介し、徐々に（だんだんと）につなかりをステップアップしていくよう取り組みます。</p>

**【5年間計画】**

	R1	R2	R3	R4	R5
つながり暖だんステップ	高齢者が集まる場で実施	→			
		企画内容を随時検討	→		
					15回実施 (5ケ年)

**柱3 地域を基盤とした『つながり』づくり**

実施項目
6 つながる一歩を手助けする人づくり
取り組み
<p>地域行事やサロンなどの「場」に出てこれない、または出てくる一歩が踏み出せない住民に「場」以外でつながれる仲間づくりを進め、次の一歩を後押しします。</p> <p><b>【実施項目6】 あったか交流活動</b></p> <p>サロン運営者や地域団体などと連携し、サロンや地域イベントの参加機会が減った“少し気になる高齢者”などの自宅へ、福祉情報誌などを届け、心の交流を図ります。</p> <p>その中から、何らかの事情で外出できない住民に対しては、その方の趣味や嗜好に合わせ一緒に楽しむボランティアが自宅に訪問し活動します。</p>

**【5年間計画】**

	R1	R2	R3	R4	R5
あったか交流活動	・サロン運営者等との話し合い	実施	→		
		ニーズ把握と活動内容の検討	→		

**柱3 地域を基盤とした『つながり』づくり**

<b>実施項目</b>
<b>7 地域の中で安心して過ごせる居場所づくり</b>
<b>取り組み</b>
<p>地域住民同士の親睦を図り、“顔の見える関係”を築くことで、誰もが安心して暮らせる地域を目指します。</p> <p><b>【実施項目7】 多世代の交流</b></p> <p>子どもから高齢者、障がいのある方、外国人など幅広い世代が、伝承遊びや学習支援、スポーツ等文化活動を通じて出会い、つながる多世代交流事業を開催します。開催にあたっては、地域住民が集まりやすいお寺や公園などの場所を活用し、地域団体やボランティアグループ・NPO等と連携しながら企画検討を進めます。同じ場を体感することで、自然とつながっていく場となるよう定期開催を目指します。</p>

**【5年間計画】**

	R1	R2	R3	R4	R5
多世代の交流	・開催に向けた場所、連携団体への働きかけ	交流事業の開催			場所を決めて2か所程度で実施(5ケ年)

**計画の推進・評価体制**

**(1) 計画の推進**

計画の推進は、本計画の3つの柱ごとに分かれた「推進チーム」を中心に行います。「推進チーム」は、計画の推進を行う実践部隊で、策定に関わった作業部会委員をはじめ、新たに公募で参画いただいた区民、計画の推進に必要な関係者で構成されています。

「推進チーム会議」は、1ヶ月から2ヶ月に1回開催するとともに、必要があれば、複数の推進チームが合同で会議を行います。

**(2) 計画の評価**

計画の進捗状況の確認と評価を行うため、原則、年に2回、「計画全体会議」を開催します。

計画期間の初年度である令和元年度から3年目にあたる令和3年度は、年度ごとの進捗状況について評価し、必要に応じて、次年度以降の年次計画の見直しを行います。

計画期間の4年目にあたる令和4年度には、それまでの4年間を通じた進捗状況の評価を行い、その結果を令和5年度に行う第5次地域福祉活動計画の策定に反映させます。

**【計画の推進・評価】**

**■2019年度～2021年度(1～3年目)**

〈4月〉	〈10月〉	〈3月〉
実践 → → →	計画全体会議 ※進捗状況の確認・共有	実践 → → →
		計画全体会議 ※年度ごとの評価・見直し

**■2022年度(4年目)**

〈4月〉	〈10月〉	〈3月〉
実践 → → →	計画全体会議 ※進捗状況の確認・共有	実践 → → →
		計画全体会議 ※4年間の取り組みの評価

**■2023年度(5年目：最終年度)**

〈4月〉	〈10月〉	〈3月〉
実践 → → →	実践 → → →	実践 → → →
第5次計画の策定作業 → → → → →		

千種区社会福祉協議会 第4次地域福祉活動計画 策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 社会福祉法人名古屋市千種区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）が、地域福祉を計画的に推進するために、平成31年度から平成35年度までを実施期間とした、第4次地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」という。）を策定するにあたり、策定委員会を設置する。

(協議事項)

第2条 策定委員会は、第4次活動計画策定について次の各号について協議する。

- (1) 第4次活動計画の策定に関する事項
- (2) その他必要な事項

(組織)

第3条 策定委員会は、次の各号に属する策定委員20名以内で構成し、区社協会長が委嘱する。

- (1) 学区区政協力委員会委員長
  - (2) 民生委員児童委員協議会会長
  - (3) 区社協理事
  - (4) 第3次地域福祉活動計画推進委員
- 2 策定委員会に委員長及び副委員長を各1名置き、策定委員の互選により選任する。
- 3 委員長は、策定委員会を代表し、会務を掌理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(作業部会)

第4条 第4次活動計画の策定に関し、必要な資料の収集、調査及びその他各種の研究を行うために策定委員会のもとに作業部会を設置することができる。

2 作業部会の部会委員は、次の各号に属する者20名以内で構成し、区社協会長が委嘱する。

- (1) 第3次地域福祉活動計画推進委員
  - (2) 公募委員
  - (3) その他、前項の目的を達成するために区社協会長が必要と認めたる者
- 3 作業部会に部会長及び副部会長を各1名置き、部会委員の互選により選任する。
- 4 部会長は、作業部会を代表し、会務を掌理する。
- 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 策定委員及び作業部会委員の任期は、第4次活動計画の策定をもって終了する。

(会議)

第6条 策定委員会及び作業部会の会議は、委員長及び部会長が招集し、議長となる。

2 策定委員会及び作業部会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 策定委員会及び作業部会の庶務は、区社協事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、区社協会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成29年12月11日から施行する。

第4次地域福祉活動計画 策定委員名簿

(敬称略・順不同)

区分	氏名	役職等	備考
学区区政協力委員会委員長	山田 祐一郎	千種区区政協力委員協議会 副議長	副委員長
	犬飼 隆	大和学区区政協力委員会委員長	
民生委員児童委員協議会会長	小林 有三	民生委員児童委員連盟千種区支部 副支部長	
	金谷 恵子	見付学区民生委員児童委員協議会 会長	
区社協理事	渡邊 勲	うへの授産所 所長	
	塚原 義政	千種区老人クラブ連合会 会長	
	伊藤 さとみ	千種区子ども会育成連絡協議会 会長	
	加納 裕幸	千種区身体障害者福祉協会 会長	
	山本 由美子	千種区ボランティア連絡協議会 会長	
	山田 攻	千種区保健環境委員会 会長	
	岸本 惇子	千種区地域女性団体連絡協議会会長	
第3次地域福祉活動計画推進委員	亀山 寿恵	千種区保健福祉センター福祉部長	委員長
	水野 勇夫	元名古屋文化学園保育専門学校講師、元愛知県社会福祉協議会地域福祉部長	
オブザーバー	名倉 勇一郎	司法書士・行政書士	
	小崎 恵子	民生委員児童委員連盟千種区支部 支部長	
	杉浦 尚久	千種区区政協力委員協議会 議長	

第4次地域福祉活動計画 作業部会委員名簿

(敬称略・五十音順)

区分	氏名	役職名・所属等	備考
第3次地域福祉活動計画推進委員	安達 啓子	歯科医師（愛知学院大学）	副部会長
	伊藤 真理子	シニアメイクボランティアすみれ	
	江部 眞弓	NPO 法人花＊花 理事長	
	高松 三千男	災害ボランティアちくさネットワーク 副代表	
	中土 篤子	元千種区社会福祉協議会職員	
	名倉 勇一郎	司法書士・行政書士	
	野村 久子	サロン「和みの家」代表	
	牧村 郁子	NPO 法人名古屋コダーイセンター 理事長	
	溝口 弘子	千種区ボランティア連絡協議会 副会長	
	山口 美佳	知的障害者相談員	
	山田 祐一郎	千種区区政協力委員協議会 副議長	
公募委員	稲垣 米子	自由ヶ丘学区女性会	
	岡田 衣津子	市民経済局地域振興部地域振興課 コミュニティサポーター	
	熊澤 章	なごやかハウス希望ヶ丘 施設長	
	杉原 昌博	生活協同組合コープあいち 福祉事業本部 生活支援課長	
	林 尚子	星ヶ丘民生委員児童委員協議会 会長	
区社協会長が必要と認めたる者	山神 尚人	千種区小中学校 PTA 協議会 会長	部会長
	黒川 文子	愛知淑徳大学福祉貢献学部 准教授	
オブザーバー	改田 光崇	都福祉会館 館長	
	越ヶ谷 美智代	千種児童館 レクリエーションスタッフ	
	谷口 法絵	千種区介護保険事業所 ミドルマネージャー	
	鶴間 重行	千種区保健福祉センター福祉部 主査（地域包括ケア推進）	
	豊永 水帆子	星ヶ丘保育園（エリア支援保育所）主査	
	永池 大介	千種区西部いきいき支援センター センター長	
	中根 容子	千種区東部いきいき支援センター 所長	
	横田 麻子	千種区障害者基幹相談支援センター センター長	
	伊藤 星	愛知淑徳大学福祉貢献学部学生	
	鈴木 郁海	//	
平松 柚良	//		
丸岡 志桜里	//		
村松 亜美	//		

**社会福祉法人 名古屋市千種区社会福祉協議会**

〒464-0825 名古屋市千種区西崎町二丁目4番地の1

**TEL** 052-763-1531 **FAX** 052-763-1547

**E-mail** [chikusaVC@nagoya-shakyo.or.jp](mailto:chikusaVC@nagoya-shakyo.or.jp)